

# はく 柏葉 12月号



第 477 号  
令和7年12月1日発行  
社会福祉法人 柏葉会  
幼保連携型認定こども園  
柏原こども園

## 寒さに負けず元気に過ごそう！

師走に入りめっきり寒くなり本格的な冬の訪れを感じる季節となりました。11月は天気のいい日には「地域を園庭と考えよう」を合言葉に散歩に出かけ、身近な自然に触れて遊びました。木の実や落ち葉など季節ならではの素材に出会い、それらを使った絵画や造形活動にも意欲的に取り組む子どもたちの姿が見られ、イメージを形にしていく楽しさや達成感を味わい芸術の秋を感じることが出来ました。もも組はさつまいもの絵を、すみれ組は不思議な種から咲く不思議な実の絵を、ふじ組は忍者遊びを継続していて、お城の絵を描くことになり実際に長浜城を見学してから描きました。どの絵も本当に素晴らしい芸術作品です。また園で展示をしますのでご覧ください。

12月は祖父母参加での餅つき大会やクリスマス会、お正月に向けての期待が大きくなり子どもたちにとってはとても楽しみな月です。しかし、寒くなるにつれてインフルエンザ、ノロウィルスなどの感染症も流行し始める時期もあります。引き続き、手洗い・うがい・部屋の換気・消毒等を十分に行いながら寒い冬を元気に過ごせるようにしていきたいです。

## 12月の行事

- 1日(月)・15日(月) 交通指導
- 3日(水) 柏原中学生家庭科授業実習
- 4日(木) 餅つき大会
- 8日(月) 運動教室(3・4・5歳児)
- 10日(水) 卒園写真 9:30~
- 11日(木) サッカー教室(5歳児)
- 12日(金) クリスマス誕生日会
- 13日(土) 保護者会環境整備(ふじ組の保護者)
- 15日(月)~17日(水)  
ふじ組ともも・すみれ組希望者個別懇談会
- 17日(水) 避難訓練と身体測定
- 19日(金) 親子ふれあい参観(0歳児さくら組)  
&生活発表会(1・2歳児さくら組)
- 19日(金) 保育納めの会(1号認定)
- 26日(金) 保育納めの会(2号3号認定)
- 27日(土) 希望保育

## 12月の歳時記

### ●大雪(7日)

二十四節気の一つ。陰暦11月の節で、立冬後30日、新暦では12月7日ごろにあたり、季節のうえでは、ちょうど初冬の中ごろにあたります。

### ●冬至(22日)

一年のうちで昼の時間が最も短く、夜が長くなる日。この日に南瓜やこんにゃくを食べると一年中健康に過ごせ、また、ゆず湯に入ると風邪をひかないと言われています。

### ●大みそか(大晦日)

旧暦は月の満ち欠けで暦が決まっていました。新月を1日とし、月が隠れる「晦」の頃がおおよそ30日であったことから、30日を晦日と呼ぶようになりました。なぜこう読むのか疑問に思われるがちですが、かつて「みそか」は「三十日」と書いていました。また、「晦(つごもり)」という字には、「月が隠れる日」という意味があることから、毎月の末日を指す言葉として使われるようになりました。一年で最後の晦日であり、最も大事な日である12月末日を「大晦日」と呼ぶようになりました。

## 主な活動としつけのめあて

### さくら組(0歳児)

- 暖かい時間帯には外気に触れ、健康に過ごす
- 安定しながら身近なものに関心を持ち、触れて楽しむ。

### さくら組(1歳児)

- 室内の気温・湿度・換気に配慮しながら一人ひとりの体調に留意し、健康に過ごす。
- 保育者に手伝ってもらいながら、衣服の着脱等、簡単な身の回りのことをしようとする。
- 保育者や友だちと歌ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。

### さくら組(2歳児)

- 手洗いや着替え・排泄など身の回りのことを自分から進んで行う。
- 戸外に出て冬の自然を見つけたり触れたりする。
- 劇遊びを通して簡単な言葉のやり取りを楽しんだり自分の思いを言葉で伝えたりする。

### もも組(3歳児)

- 衣服の着脱や手洗い、消毒等、自分でできることを進んで行い生活習慣を身につける。
  - 寒さに負けず戸外でのびのびと運動遊びやルールのある遊びを楽しむ。
  - 冬の訪れを感じ季節の行事や自然の変化に興味関心を持つ
- ☆エジソン箸から移行し箸を使って食事をする。

### すみれ組(4歳児)

- 冬の生活を理解し、衣服の調節 手洗い等の生活を自ら進んで行う。
  - この時期ならではの遊びや行事の雰囲気を友だちや保育者と一緒に楽しむ。
  - 年末年始の過ごし方や一年の終わりを知り新しい年を迎える準備をする。
- ☆手洗い・うがいをしっかりとしよう！

### ふじ組(5歳児)

- 友だちと協力し共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた満足感や充実感を味わう。
  - 寒さに負けず戸外で積極的に体を動かしたり、ルールのある遊びを楽しんだりする。
  - 冬の自然や季節の行事への興味を深め、遊びに取り入れて楽しむ。
- ☆時間を意識して過ごそう！

～エピソードに学ぶ NO. 19～

## 幼児期に育てたい生涯大切なこと

11月10日(月)の日です。小雨が降る中JRを乗り継ぎ、5歳児ふじ組の子ども達は長浜城を見学するために出かけました。ふじ組のみんなは5月の園外保育で関ヶ原古戦場記念館に出かけてから、歴史上の人物に関心を持ったり、忍者ごっこでミッションをクリアしたりと継続して楽しんできました。そしてお城の絵を描くという流れになりそれなら実際にお城を見た方がよいということになり出かけることになったのです。お陰様で雨は降ったりやんだり。実際に見るお城は迫力があり、石垣が迫ってくる印象でした。屋根の形を見たり瓦の線がうろこのようだったり先は丸くなっていたり窓がたくさんあることなど細かく見ていました。そして20日の日にそのお城を描くことになりました。ふじ組の部屋には日本を代表するお城の写真がいくつか貼っています。まず、担任のお話劇場の始まりです。

担任「ある星の輝く夜のことです(ここで先生手作りの立体お城登場)お城では大事な巻物を敵に盗まれるという事件が起こりました。そこで忍者たちにミッションが課せられました。……」と続けます。子ども達は担任の作った立体のお城がでてきた瞬間「先生すごい！」

「かっこいい」と歓声が上がりました。視覚とお話との導入に子ども達は引き込まれるといよいよお城を描くことになりました。石垣から描く子、屋根から描く子と色々です。自分が感じた三角の屋根を書いていきます。窓を書いていきます。

色は黒やグレー・黄土色茶色とお城らしい色を準備しています。前日にみんなの先生で色の調整をしました。描いているお城がそれぞれ個性的でその取り組む過程も感動です。長い時間集中して表現していきます。出来上がるとマーカー

ペンで忍者を描き加えていきます。お城というテーマは少し難しいと思いましたが出来上がったお城は本当に線が美しく、ずっと見続けてしまうほどです。子ども達にも達成感が感じられました。



そして西川先生を囲んで反省会と講話で勉強会です。西川先生に一人一人の講評をいただきます。そして今回は「発達について」と「4つの大切なこと」をポイントに教えてもらいました。「3歳児は私と先生」「4歳児は先生と私と友達」「5歳児は友達から友達へと関係性を築いて」いきます。そのため①家庭と園とが連携して自己肯定感を育てる。②自己有能感を育てる。(例〇〇に気づいたね。すごいね)③他者に対する信頼感(考えさせていく)を育てる。④他者のために役立ったという喜びを育てる。(ありがとうございます)この4つを育てることで子ども達は自己実現をしていく=根底は愛情。叱ることはしない。

「正対」することが大事。目線を同じにして両手を持ち正しいことを繰り返し教えていくことをしていくようにと教えてもらったので、是非ご家庭での子育てに役立てほしいと思います。

長浜城からの帰りの子ども達のやり取りです。「帰ったらパティシエごっこしよう」「パティシエって何?」「パティシエはお菓子を作る職人さんのこと」「やるやる、私も入れて」「うん、考えておくね」「なんですよ。今いいって言って!」するとすぐOKをもらえなかったらちゃんが顔を膨らませ足を地団太し怒り始めました。やり取りを見ていましたがとっさでどう言おうか迷いました。「ちゃんいつも怒らはるの?」と聞きました。すると「そう!」という答え。「そのあとどうするの?」と聞くと「譲ってる」と言います。このやり取りの中に自分、他者、友達という発達の姿が見え隠れして子ども達の心の中を垣間見ることができました。成長の過程のひとこまです。